



「家庭・地域とともに伸びる学校」

～学校・家庭・地域が連携・協働した取組を推進し、

「地域総がかりによる学校づくりと児童の育成」をめざして～

校長 淵上 こそえ

本校がコミュニティ・スクールの指定を受けて今年度で6年目になります。コミュニティ・スクールとは、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域総がかりによる学校づくりと児童の育成を進める仕組みです。コミュニティ・スクールの取組としては、主に「学校運営」「学校支援」「地域貢献」の3つがあります。

「学校運営」では、保護者・地域の代表の方々によって構成される学校運営協議会で、学校運営の基本方針を承認していただいたり、教育活動等について意見を出していただいたりして、それらを学校運営に反映させながら、よりよい教育活動につなげていきます。委員の皆様にはとても熱心にお取り組みいただき、大変感謝しております。

「学校支援」では、多くの地域の方や保護者の方に、校舎内外の環境整備、読み聞かせ、学習の補助、ゲストティーチャーとしての指導、登下校の見守り、放課後子ども教室（西の寺子屋）等で、子ども達のため、学校のためにご尽力いただいております。昨年度は新型コロナウイルスの影響で例年のようにはいきませんでした。それでも延べ505名の方が活動してくださり、本当に有難く思っております。そして、支援をしてくださる方々には「子ども達ができるようになった」「学校や先生方の役に立った」というやりがいや満足感を感じていただけているようで、私達教職員も嬉しい限りです。

「地域貢献」では、学校や子ども達が地域や地域の方々のための活動をします。例えば、ボランティア活動や地域行事への参加や手伝い、地域をよりよくするためにどうすればよいかを考えて提案する等です。挨拶も大切な「地域貢献」の一つです。本年度は朝の挨拶に力を入れており、子ども達は日に日に相手に聞こえる挨拶ができるようになり、明るい声で元気よく挨拶をする子も増えてきました。

見守り隊の方々からは「毎朝、子ども達が元気に挨拶をしてくれてとても嬉しいです。」「朝だけでなく、帰りや昼間出会った時にも、挨拶をしてくれるようになりました。」「子ども達の元気な挨拶のお陰で、こちらまで元気になります。」といった声が聞かれ、私が偶然お会いした地域の方も「よく挨拶をしてくれるよ。」と、笑顔で嬉しそうに言ってくださいました。このように、地域に元気の種を蒔き、地域の方から褒めていただくことで子ども達の自己有用感や自己肯定感が高まっています。昨年度は「学校支援」同様、新型コロナウイルスの影響で十分な活動ができませんでしたが、今年度はしっかり活動できることを祈っています。また、「地域貢献」には地域の方々に空き教室を趣味の活動の場として活用していただいたり、学校を活動成果の発表の場としていただいたりすることも含まれます。学校が地域の核となり、よりよい地域づくりに貢献できることを願っています。

このようにして、子どもたちが、教職員が、保護者や地域の方が喜びを感じ、元気になることで、学校も家庭も地域も活力にあふれ、ともに伸びていけると信じています。もちろん、それが学校教育の質の向上につながっていることも見逃せません。今年度も、田布施西小学校は「コミュニティ・スクール」として「家庭・地域とともに伸びる学校」を目指していきます。

今後とも保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



新型コロナウイルス感染にも熱中症にもご注意を！

新型コロナウイルスの予防接種が始まり、近隣地域の感染も減少しておりますが、まだまだ感染予防にはしっかり取り組んでいくことが必要です。しかし一方で、急激に気温が上がり熱中症の心配も大きくなってまいりました。そこで、学校では子ども達に次のように指導しております。ご家庭でも、ご指導とご協力をお願いいたします。

- 外で運動したり遊んだりするときや、登下校をするときは、マスクを外してもよい。
- マスクを外したときは、人との間を2m以上空けて、おしゃべりをしないようにする。
- 外で運動するときや遊ぶときは、時間を決めて日陰で休憩し、水分補給をしっかりする。